

「心に留め 思い巡らす」

ルカ 2 : 28-38、2 : 6-55

■ 光は十字架の恵み

イエスキリストが暗闇の中で私たちの中に灯そうとしたその光は、1人ではなく多くの人たちの心の内に灯された時に、暗闇の中で大きな光を表すことでした。私たちの心の中にあった様々な罪がその十字架に触れるときに、その痛みだったものが美しい飾りになるのです。神様が永遠で、それは平和であって、私たちの心の痛みと苦しみがいエスキリストによって、十字架の血を通して癒され、光となることを受け取りましょう。

■ 3つの視点

私たちは心配と恐れによって判断してしまうことが多いのです。聖書の中にも恐れや不安によって決断をしてしまうストーリーがたくさん出てきます。そして神様はいつも「恐れるな」と語られます。しかし、私たちは正しく判断することができません。

一般のリーダーシップを養う講演会などで3つの視点が大切だとも言われています。

【虫の目】・・・詳細を深く理解する【鳥の目】・・・全体像を俯瞰する【魚の目】・・・流れを把握する

起きた出来事目の前に見える事、先の事、そしてこれからの流れがどうなるのかというこの3つの視点を持ってバランス良く進むことが大切です。目の前で何が起きていても、心を騒がさず、私たちは神様の先のことを感じ、そしてこれからどんなことが起きていくのかという流れを読み取らなければいけません。神様の目線でこの3つのバランスを取ることで、私たちは初めて信仰に立つことができます。これをどうやって持っていくかが大切です。神様を信じる私たちは神様の目を持つことが必要不可欠です。

■ ルカ 2:6-

王が生まれようとしているのに宿がない。あるのは、ふん土にまみれた場所でした。そしてもう一人の登場人物は羊飼いです。数に数えられていない貧しい人たち。荒野で夜番をしている人たち。必要とされてない労働者の底辺。そこにイエス様は来られました。私たちの心の奥深くにある心の闇。自分の心の中にある良くないもの。私たちに誰にも見せられない部屋があります。その部屋をこの時に開けることができないと、また一年開けることはできません。私たちにも痛みや悲しみがある部屋、ふん土にまみれた部屋があるのかもしれない。そんな数に数えられていない羊飼いたちは、どこにいるかわからないイエス様をすぐに必死で探しました。羊飼いたちは「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」(2:14)と賞賛されました。そして、羊飼いたちはそれらの出来事をマリヤたちに告げ知らせました。

■ 思い巡らす（しかしマリヤは）

マリヤはこれらのことを思い巡らせたのです。クリスマスは私たちの人生に起こっていることを思い巡らす時です。マリヤは自分の人生に起こった出来事を思い巡らし心に刻んだのです。私たちの人生の中には様々な出来事が起こります。くよくよ悩んだり、そして否定的なことを考えるための時間ではなく、神様が私達の人生の心の暗闇の中で何をしようとしておられるのかを思い巡らして、神様掛け合っているのです。マリヤのように自分に起こっている様々な事を通して神様は何をなさろうとしているのかを私たちも思い巡らす、神様と掛け合しましょう。

マリヤはルカ 1 章 46-55 でマリヤが祈った祈りと実際に自分に起こった出来事を重ね合わせて思い巡らせているのです。

■ 神様が与えたみことば

このようにマリヤは自分に与えられた神様からの預言的な言葉を思い巡らしていました。同じように神様は必ず私たちの人生のテーマを持って、私たちを創造し私たちに大切なみことばを与えてくれます。私たちがそのみことばの中で示されていることをいつも中心に置いて生きる時、あなたの目の前に起きる出来事がどうしてなのかが分かります。神様が目的をどのように私たちに持たれたのかをしっかりと考えていきたいと思えます。

もし、その御言葉がまだ与えられていない人は、自分に与えられている御言葉を探していきましょう。絶対にあなたは見つけることが出来るでしょう。神様は私たち一人一人に目的を与えて下さっているからです。

■ シメオンの人生

シメオンの人生はイエス様に会うことであった。そしてイエス様に出会い、その子を祝福して役割を果たすのです。私たちもテストを乗り越え、その役割に立つとき、シメオンのように名言を残すことができるような人生へと祝福されていくのです。

しかし、それを聞いた人々の中にはそれを受け入れる人と受け入れない人がいます。聖書にはいつもこの二つの生き方を示されています。神様はこの世の方法で福音を知らせるようなことはなさいません。人々には理解しがたい方法で伝えられるのです。だからこそ、私たちは「選ぶ」のです。選ぶことは命がけですなぜならイエス様の十字架は命が

けだからです。

■ スタンバロー＝共に投げ合う

マリヤした思い巡らすは、スタンバローという言葉です。それは心の内側でキャッチボールをしているような姿です。しかし多くの場合、私たちがやるのは投げ合いではなく、1人壁打ちをしているような状態です。

マリヤがやっていた、スタンバローは違ったのです。「なぜこんなことが起きたのか。」「あなたの身心はなんですか。」このようにして投げ合いをし、それを通して本質が分かってくる。そこで本当にあなたの願いがどうだったのか、神の御心がどうであるのかもよく理解する事ができます。このような時に神様の平安があり、神様と共にいる人はキャッチボールをします。私たちは、本当にスタンバローが出来ているでしょうか？

■ スンテーレオ＝心に留め置く

心に留め置くとは、小さなことまで心に残る（傷をつける）ように書いていくという事です。

私たちの心の中にある様々な葛藤や思い、しかしその中で神の御心は何なのかを理解し、あなたの心の中にある本当の思いを書く必要があります。私たちは多くの否定的な言葉によって、心を書き換えてしまうことが多くあります。素晴らしい記憶も、良かったことも、感謝のことも一度の出来事で、全部なかった事になり、その大切なものを書き換えてしまうことがたくさんあります。だから心にかき巡らす必要があります。私たちは騙されやすいのです。マリヤの人生を考えてみると、彼女は心に書き留めておかないと、到底乗り越えていくことは出来なかったでしょう。愛する息子が十字架にかかるまで寄り添う人生であったのですから。このようにしてあなたの心にその最初の目的を書き刻んでいないと、この生涯を正しく乗り越えていくことができないということです。

■ 選ばれた羊飼いは

- ・ しいたげられた心に対する慰め
- ・ 礼拝への招き
- ・ 本当の回復

今までの過去の様々な、しいたげられたその心の痛みを、神様はそれらの事をなんとか慰めようと、羊飼いのところに来られました。礼拝は、本当にこの心の中にある、悲しくて本当に苦しい思い、家畜小屋のような部屋をさらけ出す場所なのです。

私たちはそこで神様のことを感じなければいけません。だから、その心の場所にイエス様が光を灯すために来たということを知りましょう。イエス様はあなたの心の中の家畜小屋に来てくださったのです。あなたのそのような心は数に数えられていないかもしれません。しかし、イエス様はそこにわざわざ来られ、生まれてくださったということ。そこに本当の回復があります。

■ 脱出（解決）のある心の（貫き）分別

これから私たちが信仰の道を歩むとき、私達の人生には、願っていたことではない事が起こったり、神様の声ですら違うように聞こえてきて、主が言われていることとは全く別の方向に行こうとすることがあります。「剣であなたの心さきも刺し貫くでしょう。」(35)とあります。私たちの人生ではそのようなことが起こります。でもそんな時、マリヤのように心に留めていたものに目を向けなくては神様の方法で乗り越えていくことはできません。

しっかりと見分け、今自分はどうかこの心の貫きを通して、その道を選んでいかなければならないのかを選んでいくのです。クリスチャンとして生きていこうとしていく時、「それは多くの人の心の思いが現れるためです。」(35)とあるように人の心が現れる時があります。しかしそのような暗闇が目の前にあるとき十字架の道を選んでいきたいのです。イエスキリストの十字架は、私たちに多くの奇跡をもたらした事をもう一度受け取りましょう。

■ 最後に

「いと高き所に栄光が神にあるように、地の上に平和が御心にかなう人々にあるように」イエス、キリストが生まれた目的がここにあります。平和をもたらすことができるのは、御心に叶う、人の戦う心の中にあるのだと言われています。

私たちの人生には赦せないような出来事、がっかりするような痛み、心引き裂かれるような出来事が起こります。そのような時、私たちは赦しを選ぶ決意をし、祈り続けるものとなりましょう。クリスマスは、私たちの心の中のふん土にまみれたその部屋にイエスキリストをお迎えする時なのです。主は癒し続け、受け止め続け、理解し続ける為に十字架に架かれたのですもしあなたが心を開くなら、そこにイエスキリストを迎えるすることができます。イエス様はあなたを呼んでいます。今、心を開いてそれを受け取り、あなたの心の深いうめきも受け取っていきましょう。

（要約者：泉水京子）

（2024年12月8日）